

第 2 4 回災害対策本部員会議での知事の主な発言

1. 会議冒頭の発言

- 本日、齋藤国土交通大臣にご臨席いただいた。発災以来、国土交通省には、幹線道路の啓開をはじめ、河川や土砂崩れ、港湾、海岸などの調査・応急対策など、昼夜を問わず、多大なご支援をいただいております、心から感謝申し上げます。
- 1. 5次避難所（いしかわ総合スポーツセンター・産業展示館2号館）については、本日14時時点で、累計で729人を受け入れており、そのうち469人を2次避難所等へ移送し、現在、260人の受け入れとなっている。

1. 5次避難所での受け入れが本格化しており、今後も、収容能力を確保していくため、明日、小松総合体育館に新たな1. 5次避難所を開設する。

小松総合体育館は約200人分を確保し、これにより、開設済みのいしかわ総合スポーツセンター約560人分と産業展示館2号館約150人を合わせて、合計約910人分を確保する。

のと里山空港で、航空自衛隊の輸送機が使用できることとなり、被災地から、のと里山空港、小松空港、そして小松総合体育館に移送する新たなルートを活用する。

孤立集落の避難者を丸ごと移送するミッションについても、新たに、輪島市の西保地区の約70名が、白山市の松任総合運動公園内の施設に移送されることとなった。

孤立集落には、1月8日時点で最大24地区、3,345人の避難者を取り残されていたが、今日現在、7地区、56人にまで減少した。目標としていた今月中での孤立集落の解消に目途が立ってきた。

引き続き、1. 5次避難所・2次避難所への移送と、孤立集落の避難者を丸ごと移送するミッション、この2つの面からの取り組みを加速してください。

- 本日、輪島市の中学生約250人が、白山市にある県立施設（白山青年の家、白山ろく少年自然の家）に集団避難した。今般、珠洲市と能登町の中学生の集団避難も決定した。

具体的には、珠洲市の約100人、能登町の約40人、合計約140人の中学生を、21日（日）に、金沢市にある施設（医王山スポーツセンター）で受け入れる。

受入先となる施設では、被災した生徒に対するケアや学習支援をきめ細かく行ってください。

- 先ほども、県議会から、①避難所での知見を有する人の人的支援、②被災地でのランドリー施設の設置について要望があった。

時々刻々と変化する現場のニーズをきめ細かく把握し、国・県・関係団体の総力を結集し、対応をお願いしたい。

2. 会議最後の発言

- 被災地の避難所はもとより、在宅で避難している方を含

め、くまなく支援が行き届いているか確認し、被災者のニーズに寄り添ったきめ細かな支援を行ってください。

- また、発災から2週間以上となり、支援を行っている方々への支援も課題となってきた。人的・物的支援をぜひお願いしたい。
- 被災者に今後の見通しを持っていただくためには、道路・水道・電気・通信のインフラ4点セットの復旧見通しを地域ごとに示すことが重要である。水道については、市町からの声にあるように、上下水道一体での復旧が必要である。国・県・関係機関・市町の関係者が連携して、作業を急いでください。そして、分かり次第、数値を含めて、情報をあげてほしい。
- 次は、事業者の事業再建、雇用の維持確保というフェーズに入る。中小企業庁等の職員が県庁に常駐いただけることになっている。国とワンチームになって、詳細な実態把握ときめ細かい支援策の検討を加速させてほしい。
- 被害が少なかった金沢以南の地域では、人やモノの交流を盛んにしていくことが、能登への経済的なバックアップになる。改めて、過度な自粛は控えて、日常の社会経済活動を行ってほしい。
- 技能実習生や留学生、こうした外国人労働者、在留外国人の皆さんに対しても相談支援などが行き届くようにしてください。

雇用調整助成金の適用は、石川県で働いていただいている方の人間としての尊厳を守り、人権を尊重するものである。共に地域の一員であるという認識で、外国人労働者、留学生として滞在する皆さんへの対応をお願いしたい。